

# 来て!見て!知って!文化財

## 貴惣門

響き合う彫刻と重厚なる建築 熊谷市妻沼1627

貴惣門は妻沼聖天山の参道の正門として建てられた重厚な八脚門であり、梁間<sup>はりま</sup>5.2m、桁行<sup>けたゆき</sup>9.2m、棟高<sup>むねだか</sup>13.3mの規模を誇る国指定重要文化財の建造物です。構造の中で特徴的なのは、側面(妻側)に破風<sup>はっぶ</sup>を三つ重ねた類例の少ない特異な形式を有していることです。屋根には瓦棒銅板葺<sup>かわらぼうどうばんぶき</sup>が用いられています。

貴惣門の建立は、歓喜院聖天堂の大工棟梁であった林兵庫<sup>はやしひょうご</sup>まさきよが、寛保2年(1742)に利根川大洪水の復旧工事のために妻沼を訪ねた周防国岩国吉川藩(現在の山口県)の作事棟梁であった長谷川重右衛門に対して設計を依頼したことに始まります。しかし、その当時は建設する余力が無く、約100年後の嘉永<sup>かえい</sup>4年(1851)に、正清の子孫である林正道<sup>はやしまさみち</sup>が棟梁となり設計より規模を大きくした上で竣工しました。彫刻は聖天堂に見るような極めて秀逸な技術を継承した上州花輪村(現在の群

馬県みどり市)の彫師、石原常八らが担当しました。

総櫓造<sup>そうげやきづくり</sup>の建物全体には多様な技法を用いた細やかな彫刻が飾られ、江戸末期の造形技術<sup>すい</sup>の粋を感じることができます。聖天堂の建立以降の時代、社寺建築の彫刻に対する鮮やかな着色が控えられる傾向があり、それに代わり、より立体性や細密さを重視した彫刻技法へと進化を遂げました。貴惣門はその最高水準の代表例として全国的に高い評価を得ています。また、それぞれの彫刻には寄進者名が刻まれていることから、聖天堂と同様に民衆信仰に基づき建立された建造物であることが分かります。(山下祐樹)



◆江南文化財センター ☎048-536-5062